

喉も地域も潤します

缶ジュースを一本買って地域貢献！。豊橋市上野町の自動販売機管理会社「サン・カンパニー」は、そんな製品を東三河各地に設置している。売り上げの一部が、募金として地元のNPO法人などに寄付される仕組み。購入者の喉だけではなく、地域を潤すしかけを生み出している。

(高橋雪花)



地元団体への募金ができる自販機を紹介する永田さん＝豊橋市上野町のサン・カンパニーで

敬礼をする犬のキャラクターが描かれた愛らしいデザインの自販機が豊橋駅前にある。実は、市防犯協会連合会への募金ができる特別な仕様。サン・カンパニーが売り上げの利益の中からドリンク一本につき十円を寄付金としてため、そのお金が地域の安全に役立てられる。

始めて十年超という募金型自販機は現在、東三河各地の街中や事業所に約百五十台設置されている。募金先は、東三河で森林保全活動をするNPO法人「穂の国森づくりの会」など七団体。自販機には、それぞれの団体に合ったオリジナルデザインや説明書きが施されている。

多くの場合、飲み物一本あたりの募金額は十円で、七団体で年間計三百万円ほどになる。集まった寄付金で、防犯協会は昨年十二月に防犯カメラ二台を購入。視覚障害者の就労支援施設を運営するNPO法人「てのひら」では活動費

豊橋の会社 売り上げ募金自販機 東三河に

に充てており、代表の大石政和さん(四三)も「国の補助金が減るなか本当に助かっている」と話す。自販機には団体の活動を紹介する小窓もあり「地域の人に知ってもらう機会になる。自販機は地域との良い橋渡し」と語る。

募金型自販機の出発点は、サン・カンパニー会長の長男で社の企画、運営に当たる専務の永田竜也さん(四八)が他の企業の経営者から経営理念を問われ、答えに窮した経験だった。「何のために会社をやっているんだろう」。自問自答を繰り返し、頭に浮かんだのが、そのころから所属していた穂の国森づくりの会の存在だった。

先細る活動資金を助けようと自販機で募金を集めると、メンバーから「安定して寄付が入る」と感謝された。募金先を広げる中で「人を、命を、社会を潤す」という経営理念が生まれた。永田さんは「ボランティア活動に二の足を踏んでも、喉が渴いてただジュースを買えば活動を応援できる。」

『同じ値段なら募金型で買おう』と思ってくれたら」と話している。☎サン・カンパニー＝053

2(45)9105